

■取扱説明

1. 外調機・空調機の本体据付

- 季節風や強風等による影響を防止できる場所に設置してください。
強風を受ける場所に設置する場合は転倒防止等の処置を講じてください。
- 積雪地域で使用すると、粉雪が露出のフィン面に多く附着して低圧圧力異常、除霜不良等を起こし易くなり、また運転停止時にプロペラファンに雪が積もり、運転できなくなる可能性があるため、ご使用は避けてください。
やむをえず積雪地域で使用する場合は次頁の「7.積雪地域における防雪対策」が必要となりますのでお問合せください。
- 特殊な雰囲気中(温泉地、海岸地区等)に設置する場合は当社にお問い合わせください。
- 機器の周囲には必ず図示以上の**メンテナンススペース**を設けてください。
- 複数台の外調機・空調機を設置する場合は、他の外調機・空調機の放熱空気または排気を直接吸い込まないように**各機の間**に**スペース**をとってください。
- 吊上げには吊りボルトを4ヶ所使用して行ってください。下吊り用本体を吊り下げる際は吊りベルトを使用し、製品との接触面に巾木や、やわらかな当て物を当て、本体に直接当たらないように保護してください。
- 内部の部品が損傷する場合がありますので、搬入時は**本体を横倒し**にしないでください。
- 基礎は、コンクリートや鋼材などの強固な基礎とし、水平レベルを確保してください。
水平が出ていないとドレンの排水不良や異常振動の発生の原因になります。

2. ダクト工事

- ダクトは急な曲がり、急拡大、急縮小を避け、ダクト抵抗が最小になるよう施工してください。
- 吸込側のダクトは、吸込む風速が均一になるよう配慮してください。
極端なばらつきがありますと能力不足や着霜の偏り、低圧異常などの不具合が発生することがあります。
- 暖房運転停止時における室内空気の逆流を防止するため、給気ダクトおよび還気ダクトに必ず室内空気**遮断用ダンパ**を取付けてください。
冬期運転時、厨房など室内の温湿度が高い場合や病院など室内がプラス圧の場合、暖房運転停止時に機内ファンが停止するため、**室内空気が機内に流れ込んで結露が発生**し、水漏れ、漏電などの原因となり機器の寿命に大きく影響を与えます。

3. 電気工事

- 配線は、容量に合った電線を使用して確実に接続し、電源には必ず**漏電遮断器**を取付けてください。
電線および遮断器は納入仕様書に記載してある**推奨のものをご使用**ください。また、**接地工事**を必ず行ってください。
- 制御スイッチと本体間の信号線は最長300m以内で、必ず各対シールド付ツイストペア線を使用してください。
本体と本体間、本体とパソコン間の信号線は最長600m以内で、必ずシールド付ツイストペア線を使用してください。
- **ノイズによる誤動作防止**のため、信号線は電源線や接地線から離して配線してください。

◎当社配線ミス以外の誤動作が発生した時は、外部ノイズの影響による場合が多いので原因究明には電気設備工事会社と連携して行なえるようご配慮願います。(当社ではノイズ対策専門チームで対応します。)

電源配線・機器容量一覧

型番		RFT-A/S型			
		4800	6000	9500	12000
最大消費電力(kW)	RA/MA	14.6	19.1	28.7	38.1
	OA	14.7	19.2	28.9	38.3
最大電流(A)	RA/MA	49.2	63.6	95.9	126.0
	OA	49.5	63.9	96.5	126.8
最小太さ(mm ²)	RA/MA	22	22	38	60
	OA				
最大こう長(m)	RA/MA	43	33	38	44
	OA			37	
漏電遮断器(A)	RA/MA	75	100	150	175
	OA				
	全機種	100mA 0.1sec以下			

4.配管工事

- 接続される配管やバルブ類の質量が本体に直接加わらないように施工してください。
- 本体内部は負圧になるため、排水配管には必ずトラップ(封水)を設けてください。
- 給水配管、排水配管およびトラップは冬期に凍結する場合があります。凍結防止ヒータ、保温などの処置を施してください。

5.保守点検

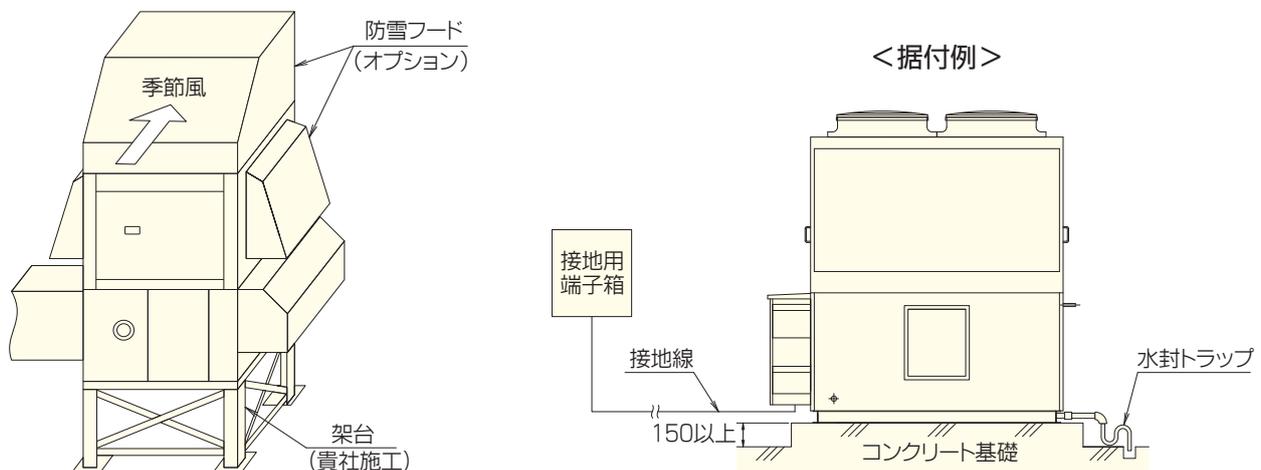
- ファンやコイルは定期的に点検し保守管理を実施してください。
- 300時間毎に制御スイッチにフィルタ点検サインが表示されますので**定期的に清掃および交換を必ず実施**してください。
(交換目安：プレフィルタ2年、中性能フィルタ1年)
フィルタの点検及び清掃を怠ると機器に重大なダメージを与え、**最終的には圧縮機の故障につながる**事がありますので、**確実に行ってください。**
- 吸込口に取付けてある防虫網は常に点検・清掃を行い、十分な外気を取り込めるようにしてください。
季節により防虫網の目詰まりが激しくなることがあります。

6.その他

- 圧縮機の液圧縮や潤滑不良による損傷を保護するため、**クランクケースヒータには必ず運転開始12時間前から元電源投入により通電させておいてください。**
- 異常停止が発生したときは、制御スイッチに表示の自己診断コードを確認し、必ず原因を取り除いてからリセット操作を行ってください。**リセットを繰り返し、不具合状態のまま運転すると機器に重大なダメージを与え、
圧縮機や冷媒回路の故障の原因**となります。
- 気化式加湿器より、まれに異臭が発生することがありますので、毎年加湿シーズン前にメーカーの取扱説明書にしたがって給水・水洗浄してください。

7.積雪地域における防雪対策(ご参考)

- 積雪量を考慮し、空調機の外気取入口が雪に埋もれないよう架台等を設けてください。
- 凝縮用外気取入口と排気口には当社製防雪フードを取付けてください。(P27参照)
プロペラファンに雪や氷が付着するとバランスが崩れ、ファンが破損することがあります。
- 防雪フードを取付ける際は、放熱風量低下防止のため本体備え付けのファンガードは取り外してください。
- 防雪フードの開口部に対して正面から季節風や強風が吹込まないように取付けてください。
- 防雪フードはワイヤロープ等にて補強し、転倒防止の処置を講じてください。
- 雪の吹きだまりや落雪が起る軒下部には設置しないでください。



詳しくは、製品に付属しています「取扱説明書」をご参照ください。